

日ラ射 019 発第 122 号
2019 年 10 月 7 日

都道府県ライフル射撃協会 御中

日本ライフル射撃協会
会 長 松 丸 喜一郎

定款、会則、規約についてのお願い

謹啓

貴協会におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

ところで、今年、6 月 10 日にはスポーツ庁からガバナンスコードが競技団体に向けて発表され、これを受けて日本ライフル射撃協会においてもガバナンスやコンプライアンスの観点から定款を見直し、同月 22 日の総会において皆様のご承認を得て定款の一部を変更いたしました。また、日本ライフル射撃協会と貴協会等の加盟団体との関係を定めた加盟団体守則についても、同総会に先立ち開催されました理事会において、加盟団体の義務を明確化するとともに、加盟団体の日本ライフル射撃協会に対する権利をも規定し、名称についても「加盟団体規則」に変更することが承認されました。

これらの経過に鑑み、貴協会等においてもその根幹をなす会則（団体により、定款、会則、規約など名称は様々です。）について、一度、見直しのご検討をお願いいたしたく、本書面を送付した次第です。

もとより、加盟団体は日本ライフル射撃協会の厳密な意味での下部組織ではなく、それぞれの団体が独自の経過をたどって現在に至っていることは十分承知しておりますが、他方、銃の所持に関する推薦については日本ライフル射撃協会が行っており、加盟団体の各構成員について、日本ライフル射撃協会としては遵守していただかなければならない事項があります。また前述した加盟団体規定にあるとおり、加盟団体には日本ライフル射撃協会への報告義務等を課しています。

また、冒頭で述べたスポーツ庁のガバナンスコード＜一般の競技団体向け＞に、6 項目にわたる原則を定め、その遵守を都道府県の協会、連盟等に求めています。具体的にはつぎのとおりです。

- 原則 1 法令等に基づき、適切な団体運営及び事業運営を行うこと
- 原則 2 組織運営に関する目指すべき基本方針を策定し公表すべきこと
- 原則 3 暴力行為の根絶等に向けたコンプライアンス意識の徹底を図るべきであること
- 原則 4 公正かつ適切な会計処理を行うこと
- 原則 5 法令に基づく情報公開を行うとともに、組織運営に係る情報を積極的に開示することにより、組織運営の透明性の確保を図ること
- 原則 6 高いレベルのガバナンスの確保が求められていると判断する場合、ガ

バナンスコードの遵守状況についての自己説明、公表の必要性

以上に鑑み、日本ライフル射撃協会として、加盟団体である貴協会の規約等について、別紙のとおり意見を述べさせていただきました。これらの意見はあくまでも参考ではありますが、できるかぎり取り入れる方向でのご検討をお願い申し上げます。

別紙 1

加盟団体の定款、規約、会則等に定めていただきたい事項

- 1 団体の名称、事業の内容について
- 2 会員について
 - ・ 会員の種類、入会資格、入会手続き
 - ・ 会員の資格停止、喪失の要件及びその手続き
 - ・ 会員の退会及びその手続き
 - ・ 除名の要件及びその手続き
- 3 団体の意思決定機関としての総会
 - ・ 総会の構成員
 - ・ 総会の権限（決議事項）…事業報告書と決算書についての議決 ほか
 - ・ 招集手続
 - ・ 定足数、議決数
 - ・ 議事録
- 4 役員
 - ・ 種類及びその選任手続き、任期、報酬
 - ・ 解任事由及び解任手続き
 - ・ 役員の権限及び責任
 - ・ 役員会…構成員、権限、招集手続き、定足数、議決数、議事録など

- 5 財産・会計
 - ・財産の種類及び管理・運用
 - ・事業報告及び決算、監査
- 6 日本ライフル射撃協会との関係
 - ・日ラの加盟団体規定を遵守すること
- 7 法令遵守、ガバナンス確立の義務
 - ・アスリートの権利保護及び心身の安全の確保
 - ・セクハラ、パワハラの禁止など
- 8 本規則の変更手続

(下記は10月7日に各加盟団体の個別の指摘、お願いをお送りしておりますがその表書きです。貴団体あての個別の指摘事項がご不明であれば再送しますので、お知らせください。)

別紙2

協会御中

貴協会の規約についての具体的指摘事項

すでに本文で述べたように、下記の指摘事項はあくまでも意見であり、変更を強制するものではありませんが、ご検討をいただきたく指摘させていただいた事項です。

謹白